

情報系学生のパソコンでの学習時における心理の研究

0532143 細谷 将士

指導教員： 柴橋 祐子 准教授 山崎 治 助教

1. はじめに

近年、パソコンの使用用途は多岐に渡り、社会の中で重要なスキルの1つとなっている。しかし、必要なスキルであるとはいえ、効率的・継続的に学習に取り組むことを困難に感じる人も多い。本研究では、学習中に感じる感情によって、学習に対する意欲や効率が向上することに着目し、「学習動機の2要因モデル」^[1]に基づいた調査を行う。パソコンでの学習中の感情を分類・分析することで、学習の効率化に関連する要因を探ることを目的とする。

2. 本調査

概要：パソコンでの学習時に抱く感情と学習傾向について、学習時に遭遇する状況を先行調査に基づき設定し、それぞれ対応付けた感情をどれほど感じるか、質問紙により調査する。

対象：情報系大学生 178名

方法：学習時に遭遇する状況を先行調査に基づき設定し、それぞれに対応付けられた感情（安心など6種類）の強さ（以降、感情尺度）を五件法に基づいて回答を求めた。また学習傾向については、市川^[1]により作成された学習動機づけの傾向を測る尺度（以降、学習傾向尺度）を用いた。

結果：学習傾向尺度について、志向毎に項目の得点を合計し、当該の志向における動機づけの強さごと（強い／中程度／弱い）の人数を求めた。図1に、志向別の動機づけの強さについて人数の割合を示す。充実志向と実用志向では、傾向が中程度以上の人数が全体の約25%を占めていた。

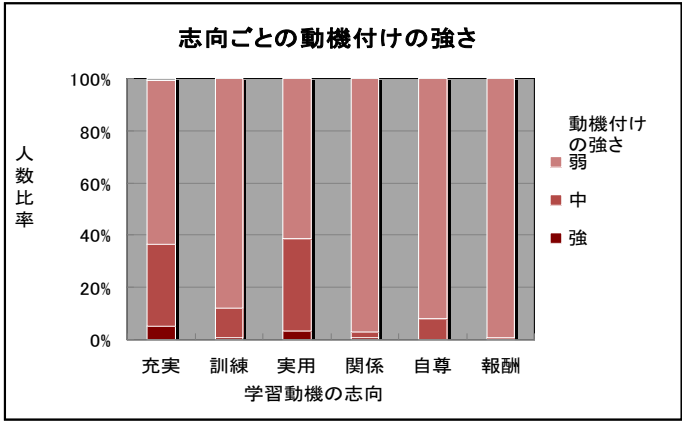


図1 志向ごとの動機づけの強さ

χ^2 検定を行った結果、志向別での動機づけの強さに有意な差が認められた ($\chi^2=186.83$, $p<.01$)。そこで残差分析を行った結果、表1にみられるように、それぞれの傾向の強さごとの人数に有意な差が認められた。

表1 志向別の動機づけの強さに関する残差分析結果

	充実	訓練	実用	関係	自尊	報酬
傾向強	4.046 **	-1.203 Ns	2.078 *	-1.203 ns	-1.859 +	-1.859 +
傾向中	6.752 **	-1.397 Ns	8.382 **	-5.122 **	-2.794 **	-5.821 **
傾向弱	-7.85 **	1.749 +	-8.743 **	5.32 **	3.311 **	6.213 **

+p<.10 *p<.05 **p<.01

さらに、志向毎に動機づけの強い群（強い／中程度）と弱い群（弱い）に分け、パソコンでの学習時に喚起される感情について分析を行った。図2に充実志向の強い群と弱い群における各感情の得点を示す。t検定の結果から、すべての感情に関して有意差が見られた（安心：t(98)=3.60, $p<.01$, 緩和：t(98)=2.94 $p<.05$, 集中：t(98)=4.15, $p<.01$, 目標：t(98)=6.69, $p<.01$, 嬉しさ：t(98)=4.83, $p<.01$, 興味：t(98)=8.13, $p<.01$ ）。

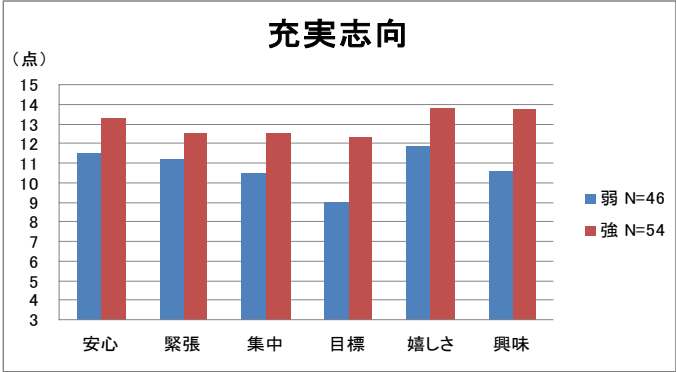


図2 充実志向における感情尺度の平均得点

4. 考察

全体としてパソコンでの学習時に喚起される感情として、安心や嬉しさを挙げる人が多く、目標に対する意欲を挙げる人は比較的少なかった。調査対象となった情報系学生は、課題を解くこと自体への安心や嬉しさを感じているものの、中・長期的な学習目標への関心が薄いのではないかと考えられる。また、充実志向や訓練志向、実用志向といった学習の重要性を高いと感じているほど、感情を感じる傾向が強いことがわかった。

これらの結果より、学習傾向にあわせてパソコンでの学習時に状況設定を行うことで、学習の効率化や意欲の向上が望めることが示唆された。

5. 参考文献

[1]市川伸一(2001)「学ぶ意欲の心理学」PHP 新書